



夢・いっぱい

第13号

令和3年3月25日

○ 2020年度の経営方針：今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

一年間を振り返って

校長 原田 剛

年度始めの緊急事態宣言による一斉休校、そして5月の学校再開。新型コロナウイルス感染症防止のために制限された学校生活や各種行事。そのような中でも、通常の学校生活を送ることを第一とした一年間が終わろうとしています。何が正解なのか分からない状況の中、異なる価値観がぶつかり合いながら、納得できるものを目指すことが求められる状況が続きました。

保護者・地域みなさまには、学校からの突然の変更や無理なお願いが多くあり、大変ご迷惑とご心配をおかけしました。しかし、そうした中であっても、常に学校のことを支えていただいたことに心から感謝申し上げます。

保護者のみなさまには、お子様の学校での様子を参観する機会が少なかったことと思います。それでも、年間2回実施された参観日には、多くの方に来校いただきました。ありがとうございました。

地域みなさまには、学校支援活動や子どもたちによる地域貢献活動が中止となり、コミュニティ・スクールとしての活動が機能しなかったことは残念でなりません。来年度、感染症が収束の方向に向かいましたら、是非、愛宕小の子どもたちの健やかな成長のために、ご支援を賜りますようお願いいたします。

コロナ禍にあっても、愛宕小の子どもたちは懸命にがんばっています。すばらしい子どもたちの今後の更なる成長を期待しています。来年度も、本校の教育活動へのご理解とご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



学校支援の一環として社協青少年育成推進委員会から東門にお花をいただきました

卒業証書授与式が挙行されました

天候にも恵まれ、暖かな春の日差しが降りそそぐ中で、今年度の卒業証書授与式が行われました。無事、95名の卒業生全員に卒業証書を手渡すことができ、大変うれしく思います。



堂々とした入場

今年度、最高学年として活躍する晴れ舞台は多くはありませんでしたが、卒業式の中では立派に成長した姿を見ることができました。卒業生のみなさんの活躍を祈っています。



先生方が持つアーチを通過して巣立っていきました

在校生とのお別れ式

卒業式前日(18日)、在校生とのお別れ式がありました。卒業生からのお別れの言葉がテレビ放送で流された後、校舎の各階を卒業生が歩いて通りました。在校生は、花のアーチを掲げ、拍手でお見送りです。恥ずかしそうに、少し早足になる卒業生に温かい言葉が贈られていました。在校生の中には涙ぐむ子どももいて、卒業生がどれだけ慕われていたかよく分かりました。



生花の贈呈がありました

JAGグループ山口様から学校へ生花の贈呈があり、卒業生の各学級に1つずつ、教職員用にも1ついただきました。コロナ禍にある子どもが明るい気持ちで卒業を迎えられるようにと実施されているものですが、花需要減少の影響を受けている花卉生産者のみなさまを支援することも目的としています。互いに幸せを分かち合える取組が素晴らしいですね。本当にありがとうございました。

